

柏木学園ニュース

URL <http://www.kashiwagi.ac.jp/>

平成 23 年

7 月号

No.81
奇数月発行



体育祭

柏木学園高等学校



球技大会

柏木実業専門学校



柔道部

大和商業高等専修学校



遠足 —こどもの国—

都筑ヶ丘幼稚園

プラトンの「国家」を読む

柏木実業専門学校 校長 平光 慎思郎

久しぶりにプラトンの「国家」を読み返した。過去に2度読んだことがあるが、今回は実に久しぶりである。

最初は高校生の時、しかしプラトンの思想の複雑さに途中で挫折した。2度目は43歳の時である。これは県の教員として教育センターで長期研修をしていた時、研修課題として、このプラトンの「国家」を通して、教育論を1年間毎週2時間のディベートを行った。

この時期は、他の研修課題に追われ読む時間がなかったため、女房に、この「国家」をテープに朗読録音させ、朝夕の通勤に車の中で聞くのが、「国家」の読書であった。

本校に勤務してまもなく、書齋に文庫本があったのに気づいて手に取った。研修時の教育談義を思い出したのである。そして、その1ページを繙いた。

「国家」は、「正義」について探求し、その上で良き国家とは何かを説き明かし、プラトンの教育思想が体系的に描かれているため、「教育学」必読の書といわれている。

正義の人と不正の人とはどちらが幸福なのかという問いから発し、正義の定義を明らかにするに当たって小さな正義をひもとく前段として大きな国家の正義を究明し、それを個人に当てはめようとする形で展開する。

プラトンは、人間は一人ひとり異なり、生まれつきの基本的な差異を持ち、理想の社会では、その本性や能力の違いに

応じた階級に置かれるべきであると考え、その階級に応じた教育をするべきだと提唱している。

そして、真の哲学者による統治こそ理想の国家であると考え、社会の指導者は最高の教育を受けた者でなければならないと考えました。

国家という社会集団に必要な人材の育成、それぞれの階級に応じた人間の選択、能力に応じた選別という教育システムを唱えています。

すなわちプラトンは、教育は国家形成に関わることであり、国家は教育を保護し、教育はその国家の枠の中で行われ、各人は各人に応じた教育と仕事をするようになるので幸せになると考えたのです。

『我々が国家を建設するに当たって目標としているのは、その中にある一つの階層だけが特別に幸福になるようにということではなく、国家全体ができるだけ幸福になるようにということである。』

国家は教育を用いて国家を守り、より良い市民を育てるものであるという理念に立って教育がなされます。

国家のための教育は、個人の利益と幸福、繁栄が集団・国家の繁栄にもつながるプラトンの教育学を再確認させるものです。

私の書齋の本棚の端に、十数本の録音テープが並べられている。